

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 7年11月15日
(150号)

中之島ニュース

[事務局] 〒567-0861
茨木市東奈良2-7-10
人間学塾・中之島
事務局 古田修平
編集長 西村俊幸

「道縁に導かれて」 浅井周英先生 (十月度特別講義より)



■『理想の教師像』との出会い

昭和十一年に、私は和歌山の田舎の寺の副住職の次男として生まれました。住職は、祖父・岡村周薩といい、『真宗大辞典』を昭和十年に刊行しています。

高校は病気のために卒業まで五年かかり、大学へ進学、卒業した時は就職氷河期でしたが、教員採用試験を受け、国語の教員として大阪の中学に赴任しました。その五年後に親の体調や父を亡くしたこともあり、和歌山に戻り小学校の教師になりました。その子どもたちのエネルギーの凄さにたちまち圧倒され戸惑いました。プライベートでは結婚話が破談になるなど、公私ともに心境はどん底を味わっていました。当時学校には宿直の泊まりの制度があり、あるときその当番となりました。たまたまその宿直室にあったのが森信三先生の『理想の教師像』でした。その本は自分が小学校の教育で悩んでいたことを手に取るように教えてくれ、感激しました。感激のあまり、便せん七枚に感想を書いて本に記載された森信三先生の宛名に送りました。しかし、しばらくするとその手紙は返送されてきたため、おそらく著者はもう亡くなられているのだらうと諦め、本に書いてある、ゴミを拾うことや、満面の笑みで子どもたちを迎えることなど、実践していこうと試みました。また一日一人良いところを書いて渡すこと、学級通信「ひろば」も毎日発行するようにしました。

■縁に導かれて

あるとき、法政大学の古田拓先生の講義を聴く機会に、初めて出会った林田勝四郎先生のご縁から森信三先生につながり、お目にかかれることになりました。ずっとお会いしたいと願っていた森先生に初めてお会いできたとき、(旧姓の)「岡村周英」の名刺を渡すと、先生は『真宗大辞典』の岡村周薩に名前が似ている、と身内の名を口にされ、本当に驚きました。「人間は一生のうち逢うべき人に必ず会える。しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎないときに」の先生の語録通りの実体験でありました。

その後森先生と一緒にさまざまな研修でいろいろな所に参りましたが、とりわけ三重県の日生学園は全寮制で、全国から事情のあるぐれた生徒ばかりが集まっているところでした。規則はたいへん厳しく、「晨行」という名の清掃を行い、校舎や講堂の床を磨きます。青田校長が率先してものすごいスピードと力で磨き上げるため、高校生の生徒も倒れる者が出るほどでした。青田校長は夏休み中も家に帰らず生徒の指導をされ、「太陽に日曜日はあるか」と話されました。また、私たち教師がだらだら歩いている姿をみて「それでも教師か！ 全力で歩きなさい！」と一喝されました。

この学園の生徒F君は規則の厳しさに耐えられず、母親に宛てて「この学校のような規則正しい生き方は嫌だ、家から通学できるところに転校させてください。それを許してくれないなら大阪に出て働きます。それもいけないというなら死にます」と手紙を書きました。母親なら死ぬと言われたら飛んで迎えに来るのが普通だろうが、F君の母親は「あなたには意志が弱い、悪友の誘いを断れるのか。なぜ悪い方へ後戻りしようとするのか。もとのわがままな怠け者の弱いあなたを見るのは、身を切られるより辛い。あなたが死んだら、母親の私も即刻命を絶ちます」。この命を賭

けての母親の戒めにより、その後F君は立ち直ったそうです。

■これからの生き方

すべては素粒子でできています。量子力学においては、あらゆる物理現象の根底には波動が存在する。宇宙が地球に刻む影響は計り知れず、それは自然環境だけでなく、心理や社会にまで広がっています。時代は二〇〇年周期で変遷しています。これまでの時代は物質や安定が重視され、目に見えるものが社会の中心、そして競争や効率性が価値観の中心でした。新たな時代は、物質を超えた精神性や調和がテーマになります。情報や知識の流れが加速し、テクノロジーが社会の基盤を変え、競争などの目に見えない価値が重視されます。競争から分かち合いが求められ、一人一人の資質や個性が尊重される新しい社会が形成されつつあります。変化する時代を理解し、行動に移すこと。新たな価値観が求められる時代を一人一人が自覚と責任を持って生きることです。分かち合いの実践するためには、●情報の共有(SNS、ブログ、オンライン、プラットフォームを活用し自分の知識や経験を発信)●人脈の拡大と橋渡し(有益な人脈を他者と共有し互いを支え合う信頼と協力のネットワーク)●物やリソースの共有(必要なのを効率的に供給する)●スキル・知識・経験の提供(得意な分野を他者に伝え相互成長し、コミュニティ全体を豊かにする)が必要となってきました。これからの時代は目に見えないものの価値が中心となります。その根底にあるのが波動です。ポジティブな感情は高い波動。これからの時代は、一人一人が波動を高め、自分の資質を生かしながら、他者と調和して生きること、物心ともに満たされた社会となっていくます。平和で幸せな未来を築いていきましょう。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議》 浅井 周英 先生

◇Aグループ

・(S)ODATERU「育てる」はおだてる。

・太陽に日曜日はあるか。

・命の袋の底がもれる

・過度の祝い事は避ける。

◇Bグループ

・人間は一生のうち逢うべき人には必ず逢える。

・しかも一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に。

・太陽に日曜日はあるか。

・(S)ODATERU教育の根本は褒める。

◇Cグループ

・一人を見捨てる時、教育は光を失う。

・太陽に夏休みはない。

・相手の心臓をえぐる程のほめ言葉。

◇Dグループ

・人間は一生のうち逢うべき人には必ず逢える。

・しかも一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に。

・満面の笑顔で授業を始め、とにかくほめる。

・森信三先生の教えを実直に実践されたこと。

◇Eグループ

・Fくんのお母さんの涙(卒園式)

・太陽に日曜日はあるのか。

・波動の話。

◇Fグループ

・育てる おだてる が大切。

・波動で世の中に貢献。

・お祝い事 命に穴があく。

「逢うべき人には必ず逢える」

「太陽に休みはない」が多くてました。



総合司会 吉持 豪人塾生



講師紹介 近藤 宏枝世話人



グループ討議



山岡 英夫塾生



林 祐樹塾生



人間学塾・中之島 10月読書会

今期は、読書会のテキストを「一語一会」に一本化しました。2グループで読書会を開催。

Aグループは、指導:近藤宏枝世話人、進行:中川千都子代表

Bグループは、指導:田中檀子塾生、進行:西村俊幸世話人



Aグループ



Bグループ

一語一会 若き学徒のために 十月 より

十月十一日

いやしくもわが身の上に起こる事柄は、そのすべてがこの私にとっては絶対必然であると共に、またこの私にとっては、最善なはずです。それ故われわれは、それに対して一切これを拒まず、一切これを却けず、素直にその一切を受け入れて、それに隠れている神の意志を読み取らねばならぬわけです。

十月十四日

「朝のあいさつ人より先に !!」これを一生つづけること。自分の地位が上がっても、後輩に対しても先にするように。

十月十八日

夫婦のうち人間としてエライほうが、相手をコトバによって直そうとしないで、相手の不完全さをそのまま黙って背負ってゆく。夫婦関係というものは、結局どちらかが、こうした心の態度を確立する外ないようですね。

○今生最期の心願

わが亡き後に、心通う同志の三名にても、書を読まむ集いだにあらば、姿なき身にてあれど、希くば予もまた、その一末席に列することを、許されことをこれわが今生最期唯一の「心願」なり



真を掲載しました。そこには、当塾の卒業生の前田聡・知美夫妻とその子供たちが写っています。その子たちの為にも、三〇〇回、四〇〇回と継続させていかなければならないと考えています。(記念誌は希望される方にお渡ししています)

(石黒尚 世話人)

また京都ちおん舎読書会では、これまで周年記念会の他に50回を50名程の参加者で、100回を第7回合同読書会と合わせて100名以上の参加者で、寺田一清先生が逝去された直後でコロナ禍でもあった150回を除いて、酒席も交えてどれも盛会で大変賑やかに行っていました。しかし今回は、全一庵で開催することを優先して、参加定員を十五名としたところ、二十歳代から八十歳代の文字通りの老若男女が揃い、厳かで意義のある記念会となりました。そして今回、これまでの振り返りとして「記念誌」を作成いたしました。表紙には、四年前の一五〇回記念会の集合写真

去る十月十八日(土)に「実践人の家」の全一庵をお借りして京都ちおん舎読書会200回記念会を十五名の参加で開催しました。当塾からも中川千都子代表を始め、小南昭雄さん、池永辰朗さん、新婚の藤田耀平夫妻、そして石黒が参加しています。

「京都ちおん舎読書会200回記念会」

塾生だより

寺田一清先生に導かれて 近藤宏枝 ③④

「神(こころ)をみるという」と

寺田一清先生はいつも「こころ」を大切に扱い、私達を導いて下さっていました。たとえばそれは森信三先生が情念(こころ)の浄化として「立腰」の次に「慎言」をとりあげると説かれていたことも一つの理由かもしれません。

書道習っている私はある時、「神」をしてこころと読ませている書物に出合い心が動かされました。頭に浮かんだことは、私達の心(魂)が本来「神」と呼んだり「宇宙」と呼ばれる世界に繋がっていて、私達の「愛」に基づいて成り立っていることと確信したからです。

そして書の本質が「書は人なり」と言われる所以であることが、この事でしつくりと肚に落ちて、精神を見抜く行いなのだと思えたのでした。まず「書」を学ぶ以前に、精神を鍛錬し優れた人格を形成するように努めることが何より大切だと説かれていたからです。

そこで世の中を視回すと誰もが物質主義となり、何事も損得で物事を考えるようになってしまっていることに心が痛みます。戦後八十年を数えて、物質社会の豊かさの先には、日本民族が進むべき道がない事に、目覚めなければならぬのだと思ふのです。

また「書」の文化が一番大切なものが何なのかを気付かせてくれる事に、唯一無二の「美しい日本の言語」を生み出した先人に心から尊崇の念を抱かずにいられません。「書の妙道は、神彩が上にあり、形質はこれに次ぐものである」この言葉は、精神の表現が一番で形や線をとおして、その奥の作者の精神を見抜き、ただ美しいだけでは認めず、美醜の中の「美」を感じ取ると読み取りました。日常的な言行一致が不可欠であり、一人を慎む「慎独」が出来るかどうかを問われているのだと思います。

更に突き詰めていくと、文字は自然界の形象から始まった事に行き着きますが、大自然は、宇宙の意思に逆らわず、自分の為すべきことを繰り返してききました。文字は畏敬の念から生まれた「美」なのだと感じ入りました。

次 月 案 内

講座および記念イベント

◇日時

令和7年12月20日(土)午後一時〜

◇場所

第三土曜日
大阪大学中之島センター
10階 佐治敬三ホール

◇記念講演

講師 上甲 晃 先生
テーマ 「心の力は無限」



志ネットワーク代表。
松下政経塾元塾頭。

◇記念イベント

- ・みんなでコーラス
- ・「歓喜の共鳴」
- ・中之島新喜劇
- ・「奇跡の森はどこに」
- ・中之島落語会
- ・特別ゲスト 三代目 露の五郎師匠



福岡県生まれ。平成9年3月、露の五郎(後の二代目露の五郎兵衛)に入門。
本年(令和7年)10月、三代目露の五郎を襲名。

◇懇親会

2階 アゴーラ

おかけぎまで150号

平成24年の創刊以来、今号で中之島ニュースは150号となりました。本誌では皆様の活動報告を掲載してまいります。皆様からのレポートをお待ちしています。

2012nakanoshima@gmail.com

新刊紹介

『いのち、燦燦と』

虹天塾近江講演録 第三集いのち編
人生で大切なことを気づかせてくれる16の物語。

※中川千都子代表、伊勢の中山緑先生の講話も収録されています。



金額1,500円(税別)



申込はQRコードより

編集後記

いよいよ第14期が本格的に始まりました。まずは、浅井周英先生のご講演から。一教員から森信三先生に出逢い、実践を重ねられ、和歌山市の教育長・助役そして「実践人の家」の理事長まで務められました。ひとことひとことがとても深く、感動のご講演でした。

私事で恐縮なのですが、浅井先生の教円幼稚園へは、仕事の関係で何度も伺いさせていただきました。とても素晴らしい幼稚園です。また、浅井先生には、何度か岸城読書会にもお越しいただけました。講座当日、来られた時にお目にかかりました。覚えてくれているだろうか…と想い、お久しぶりですと挨拶すると、握手をして頂きました。それは、頑張れよの意味がこもっていると思えました。感動・感謝・歓喜でした。

さて、高市早苗内閣総理大臣が誕生しました。大きな変化の予感がします。女性初の総理。中川千都子代表も女性初の代表。通じるものを感じます。

編集長 西村俊幸